

全組合員が力を合わせよう



闘春 組織強化・拡大に全力を



No. 2668
2014年1月1日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙

仙台地方本部
大沼執行委員長



2014年を迎え、組合員とご家族の皆さんに新春のお喜びを申し上げます。大震災から2年と11ヶ月が経過しました。復興はまだまだの感があり組合員、ご家族の皆さんとこれから共に支えあつて生活再建、職場労働条件改善へ向けなお一層の奮闘を決意するものです。

自公政権は、安定多数の国会勢力を背景に、特定秘密保護法を成立させました。国民の知る権利が侵害される悪しき法律に対し、マスコミや有識者をはじめ国民の多くは反対の声を上げ、各地で抗議行動が展開されました。予想はされていた反動政権ではありますが、圧倒的な国民世論を省みることもない姿勢は、恐怖すら感じるものがあります。

また、小泉流新自由主義的経済政策の二番煎じがごとく企業には優しく、国民には冷徹な税制、派遣法の改悪、社会保障切り下げ政策が次々に明らかにされています。1000兆を超えてる国の借金は国民が後始末

をしなければなりません。若い世代にまします負担を強いることは許されません。働く仲間と団結し、また広範な良識ある市民団体とも共闘しながら一人に優しい国づくりの政治を作っていくきましょう。

一つ目は国労の抱える運動課題についてです。

「労働条件に関する労働協約」については、組合員全体での運動を進める意味で「要求署名」を展開しつつ東日本本部、本社間で団体交渉がスタートしました。これまで手付かずだった就業規則改訂に向け組織全体で盛り上げていきましよう。加えて06年、08年のJR各会社との一括和解は、「国労差別をしない」とする会社の宣言です。昇進、人事異動で前進面が伺えます。懸案である支社越えの扱い等粘り強くその解消を求めていきます。

二つ目は組織拡大についてです。中央本部は昨年指し組織拡大運動を継続する指令を発しました。結果は思うような数ではありませんが土壌は広がりをみせ、種がまかれ芽生していることは確実であり、その意味では本部の決意が全体の意識性に転化されたことは間違いありません。目標は組織の一割です。地方本部全組合員が同じ方向を見て実践していかねば到底成しえるものではありません。新庄地区、新幹線総合

車両センター、宮城野運輸区などの実践に学び、組織がまとまって目標達成に邁進しましょう。

四つ目は14春闘についてです。政府が作る政労使会議では「企業収益の拡大を賃金上昇や雇用拡大につなげる必要がある」とした文書をまとめた。目的はアベノミクス効果の当面の波及と秘密保護法で下降した内閣支持率のアップです。

新自由主義的経済政策は、世界的な競争の激化を市場にもたらし、労働力もまた商品としてその市場競争にさらされてきました。国内では、非正規労働者の拡大が進み社会保障や福祉政策に比べて大きな問題に発展しています。さらに来年4月からの消費税増税は、生活弱者をさらに困窮に追いやり、生活保護の拡大へとつながりかねません。政府はその生活保護の入り口をふさぐ法律を先の国会で成立させているのです。

春闘の本来の意義を見失ってはなりません。現在おかれている労働者の困窮は資本と政府自民党が結託して作ってきたものだからです。あらためて賃上げを含めた労働条件改善について政労使会議に求めることなく、労働者の団結と統一で求めていかなければなりません。各地区集会で意思統一し課題を実践し、国労東北総決起集会、国労仙台総行動に多くの組合員を集結していきましよう。職場改善要求にもとづく現場長との話し合いを取り組み、多くの社員の声を反映させましよう。産別の仲間と交流し団結を深め合う14春闘を作り上げましよう。

結びに、寒さ厳しい時期

宮城県支部
秋山執行委員長



新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

一点目は職場の労働条件改善に向けてです。どこの職場もこの間の合理化によって、要員が減らされ仕事に追われている状況が作られています。こうした中で、体を壊し精神疾患や健康破壊が進んでいます。こうした状況を「労働組合」として早期に改善していかなければなりません。社会の主人公である私たちが健康で安心して働き続けられる職場でなければなりません。仲間と職場の問題について話し合い、仲間の健康を気遣うことから職場の労働条件改善に向けた運動をしていきましよう。

二点目は組織の強化・拡大に向けてです。組織の強化は私たち国労にとって重要な課題の一つです。どの分会も仲間が一つの職場に集まっていこうというところには少ないと思います。「仲間同士を繋ぐ運動」が大事になっていきます。この運動をみんなで議論することか

ら始めましよう。もう一つの課題である組織拡大は、職場で起きている問題を取り上げて要求を作る努力を一緒にしていましよう。職場の問題を他労組の組合員を巻き込みながら要求をまとめ会社につけて交渉し、改善していきましよう。

こうした運動を取り組む中から組織拡大を図れるように共に頑張っていましよう。最後に、私たちは何より健康が一番大切です。健康に留意しつつ、この一年間力を合わせて「一人はみんなのために、みんなは一人のために」を実践していきましよう。今年もよろしくお願い致します。

福島県支部
小檜山執行委員長



新年明けましておめでとうございます。

東日本大震災に起因して発生した、東電福島第一原発の事故は、毎日400トンの地下水が原子炉建屋内に流れ込み放射能に汚染され、環境への影響と事故の収束・廃炉に向けた作業にも大きな打撃を与えています。「収束宣言」どころか「事故終息に向けた入り口」にすら到達していない危険極まりない状況にあります。

さて、20年のオリンピック開催地が東京に決まりました。調される度に「東京から250kmも離れている」福島県民は大きく傷付けられました。加えて政府や原子力規制委員会は年間被曝量の許容上限を20mSvまで引き上げてまで住民を帰還させようと躍起になっています。大量の電気を消費するオリンピックを前にして、原発の再稼働を求める声が強まって来るのが予想されます。

世界史に名を刻んでしまつた福島が再生に向けた道を歩むために、そして被曝労働や住民同士の分断というこの不条理から人間の尊厳を取り戻すために「全原発との訣別」はまさに出発点であり大前提であります。

さて、アベノミクス経済効果により多少景気が上昇局面になり、春闘で賃上げが求めやすくなったにもかかわらず、安倍政権に「賃上げ」の音頭を取られ労働組合のお株が奪われかねない状況です。

その一方で、一年前に原則禁止された日雇い派遣を再び認める動きが出ています。「働き方の自由化、多様化」というような建前の裏に隠れた「社会保障体系から排除」された極めて低いコストの労働力調達を是認する世論が作られようとしています。

今、JRグループ会社の業務は、正社員以外にもグリーンスタッフ、アルバイト等の雇用形態が違ふ労働によって成り立っています。

貨物会社に働く労働者の実情を議論する上で、こうした非正規雇用やワーキングプアの実態など、経済変動のマイナスの影響が社会的弱者に収斂していくという仕組みと向き合うことを私たちは忘れてはなりません。そして、これらの仕組みを改善するために職場を

基軸に14国民春闘を闘わなければなりません。国内の政治情勢は確実に右傾化しています。防衛や外交などの機密を漏らした公務員らへの罰則強化を盛り込んだ特定秘密保護法案は、国民の「知る権利」を侵す恐れなど本質的な問題点が解消されないまま可決され公布されました。

安倍首相は、秘密が際限なく広がる、生活が脅かされる、といった不安を「断じてない」と打ち消しました。

しかし、国旗・国歌法が成立したとき、当時の総理大臣は「義務づけを行うことにはない。国民の生活に影響や変化が生ずることにはならない」と国会で言明したにも拘らず、学校行事で「国旗掲揚・国歌斉唱」に従わない教職員が懲戒処分され、それを国は黙認し、最高裁も処分を「違憲」とはしていません。今すぐに見えて何かが変わるものではないとあります。しかし、自覚症状のないままに、この国を深いところから蝕む恐れがあることは否定できません。

拡大解釈して使われる不安や「通常の生活」の定義など曖昧さだらけの稚拙な法律ほど予想を超えた効力を発揮します。そのことを肝に銘じながらこの法律の廃止まで声を出し続けて行かなければなりません。

さて、組織の強化拡大は最優先課題です。将来若い人が「安全で誰もが安心して働く職場」を作ることが国労の仕事です。国労運動を受け継いで行っているために、福島県支部は組織と組合員の自己変革

をめざして行くことをお誓いして新年のご挨拶といたします。

仙台総合車両所支部 庄司執行委員長



新年明けましておめでとうございます。今年も仙台総合車両所支部をよろしく願います。

北海道・北陸へと新幹線ネットワークが拡大していく中で、車両を取り扱う私たちの職場では大きな変化が続いています。これまで年度ごとに実施されてきた業務改善合理化施策に加え、前年度には「G会社と一体となった業務体制の更なる推進」策が実施されました。これらにより、私たちの職場では業務の委託が拡大し直営の検修部分が縮められ、私たちに求められている新幹線の安全・安定輸送が確立できるか不安の声が高まりつつある状況です。その原因となる要素の大半は、何と言ってもJRとG会社の労働環境も含めた労働条件の格差にあるのではないかと考えています。

エルダーや出向としてG会社で働く組合員の改善を求める声は切実なものとなっています。そして業務を受けるG会社の体制も決して整っているとは見受けられない状況にあります。幹総セ内のG会社であるTKKでは、秋田からの配転者として社会人採用をはじめとした

多くの新規採用者で不足する現場の要員を確保している状況で、その現場で働く人たちも大変な苦勞をしている実態にあるようです。実際に業務の教育を担当した組合員からも、教育期間や受ける人数等について疑問が残る、委託後の手直しはどうなるか等、果たして本当に大丈夫なのかという不安が率直に語られているのが現状です。

私たち仙台支部にとって、14年の大きな運動の課題として受け止め、仙台地本の仲間の皆さんに御指導・御支援をいただきながら取り組んでまいります。

国労の最重要課題の一つである組織の強化・拡大の闘いですが、当支部において昨年11月に久しぶりとなる組織加入を勝ち取ることでできました。この間、粘り強くあきらめずに運動を続けてきた結果を1名ではありますが形にすることが実現でき、組合員にとって大きな喜びとなりました。あらためて確認し合ってきたのは、運動の継続、世話役活動をはじめとした国労らしい職場活動等の重要性でした。経験をふまえ、また、様々な進んだ取り組みに学びながら今年も更なる組織加入を目指しがんばってまいります。

2014年がより良い一年となります様お祈りし、新年の挨拶とさせていただきます。

共に頑張りましょう。

山形県支部 原田執行委員長

新年あけましておめでとうございます。安倍首相は、稀代の悪法



「特定秘密保護法」を強行成立させ、さらに集団的自衛権の行使や「壊憲」を目論み、いつでも戦争の出来る国へと向かっています。イラク戦争を承認したアメリカ連邦議会の議員本人は勿論、その家族だれ一人、兵士としてイラクの戦場へは行っていない兵士。戦場で「殺し殺される兵士」となるのは権力に遠い人々です。私たちは、安倍政権の危険性を一人でも多くの国民に知らせ、闘っていかねばなりません。

国労の最大の課題は組織の強化・拡大です。昨年は、新庄運転区で国労への加入があり、また、このことにより一人の加入というだけでなく、新庄連合・新庄駅連合などの活性化に繋がっています。文字通り一人の加入が国労の組織強化・拡大という言葉につながっていることを、このことに自信と確信を持ち、さらなる組織の強化・拡大に向け共にがんばりましょう。

郡山工場支部
橋本執行委員長

明けましておめでとうございます。

郡工支部の課題を述べ新年のご挨拶に代えさせていただきます。

まず業務外注化の問題についてです。約1年に3業務、12人分が外注化されました。しかしこの間の外注化反対運動で一定の成果があったと考えています。コンプレッサー外注化は提案から実施まで3年を費やし、パンタグラフも3年10ヶ月間外注化できない状況を作ってきました。また昨年6月1日実施を団交で明言していた倉庫外注化も一旦見送られ、出向を拒否していた組合員の出向を止めることができました。

「エルダー雇用」のための外注化」というJR会社の主張に対し、職場集会や会議での議論を繰り返すことで「基本的に外注化反対」で運動を進めてきた成果だと考えています。

今後とも議論と運動の中で団結を作り、外注化をはじめとした合理化と闘っていきたくと考えます。またエルダー先職場の労働条件改善に向けても取り組んでまいります。

次に放射能被曝問題です。会社は東日本大震災時の原発事故の時、被曝した車両を検査・修繕して運用するため、昨年7月郡総に入場させました。会社は線量測定や説明会を求めましたが一切受け付けませんでした。当然、誰もが不安であり作業には就けない、最低でも線量測定を実施すべきと主張し、結果的に防護服を準備させることが出来ました。組合員が防護服を着用すると、それまで同じ組合の先輩に遠慮しマスクすら着用していなかった若手がマスクを着け始めました。

若手の中には仙台や宇都宮に避難し通勤しているほど被曝を心配しているのです。我々はそのために若手を被曝車両の作業から外させることを考え、会社に主張し外させました。

こうした取り組みが我々の自信に繋がっており、さらに青年と関わりを持つというところで、「内部被曝問題」での学習会を企画し呼びかけた結果、予想外の参加がありさらに自信になりました。会社が進める合理化に対し、職場からの運動を盛り上げ組織拡大を全力で取り組みたいと考えます。

最後に会社間の格差は正について。貨物会社では、夏季・年末手当合計で過去最低の2・4ヶ月分、しかも14年連続でアゼロで貨物の組合員は苦しんでいます。この状況を打破するためにも今後ストライキを含めた闘いを展開するよう求めていきたいと考えています。今年も職場から精一杯闘うことをお誓いし、新年のご挨拶と致します。

東北自動車支部 北山執行委員長



JRバスが好きでバスの運転が誰よりも好きだった青年の心に深い傷をつけた会社に対し、あらためて強い憤りを感じます。

現在彼は再就職し、新たなスタートを切っています。が会って話をすると、「今でも国労が好きです」と言ってくれます。

そこまで彼の心を引きつける「国労とは何なのか」。仲間の声に耳をかたむけ、組合の違いを乗り越えて議論し、要求し、学習・交流そしてきっちり総括しながら次の闘いに向け準備をしていくという先輩たちが築き上げてきた国労運動の重要性をあらためて感じています。

一昨年の関越道の事故は職業ドライバーとして決して忘れることはできません。事故以降も職場では、在宅休養時間の短縮、拘束時間の延長、パワハラ等により退職者が後を絶たず定着率の低下が目立っています。過日、退職していった仲間（他労組）から、「国労はもともとずっと頑張らないとだめですよ」と言われまいした。不本意ながら職場を去って行った仲間の声に支部として組織的な運動とはなりえていない弱さもありますが、丁寧な議論と様々な取り組みを強化していく中で運動を前に進めていきたいと考えています。

組合員、家族の皆様、そして今日も職場でにじみ出る脂汗を拭きながら頑張っているすべての社員が「本当にこの会社で良かった」と思えるよう自動車支部一丸となって頑張っていきたいと思えます。

本年もよろしくお願いたします。